

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

※ 「1 自己評価及び外部評価結果」を評価機関から受領した時点で、3「サービス評価の実施と活用状況(振り返り)」と併せて作成します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	21	利用者同士の関係を把握し、座る席やトラブルになりそうな利用者に対しては職員が間に入っているが、些細なことで言い争いやトラブルになる場合がある。	どんな時にトラブルになりやすいか職員間で話し合い情報を共有する事で事前に予測し、未然に防げるようにする。	・利用者同士のトラブルについてケース記録に残し、職員間で情報を共有し、対策を考え実施する。 ・トラブルに発展する前に職員が直ぐに間に入り話題を変えたり役割活動を行う等、状況を変えることでトラブルを未然に防ぐ。 ・トラブルが起きてしまった際は、直ぐに仲裁に入り精神面でのフォローを行う。 ・パーティションを利用し空間を分けることで、トラブルを防ぐ。	12ヶ月
2	35	日頃から利用者の尊厳を損ねないような言葉遣いや声掛けを心掛けているが、日々の関わりの中で状況によっては口調が強くなってしまっている場合がある。	利用者一人一人の尊厳を守り、日々の言葉遣いを職員全員が意識し改善する。	・ミーティングや業務中の職員間の会話の中でどのような時の声掛けが強くなってしまいかを話し合い、改善策を考える。実際にその対応を行い都度振り返りを行い確認することで、職員の意識付けに繋げていく。	6ヶ月
3	23	利用者一人一人の思いや意向等を把握しているつもりだが、意思表示が困難な利用者に対して生活についての思いや意向を把握するのが不十分な時がある。	意思表示が困難な利用者に対して、家族からの情報や生活歴、日々の本人の表情や様子を通しどのような生活を送りたいか等の思いや希望を把握する。	・日常生活の会話の中から本人の思いや意向を伺い、ケース記録に残し全職員で把握する。 ・意思表示が困難な利用者に対してはご家族から聞き取りを行った際や生活の中で本人の表情や反応が良かった事を細かくケース記録に残し全職員で把握する。 ・カンファレンス時に本人の立場に立って考え、職員同士意見を出し話し合いを行う。	6ヶ月
4	48	利用者の希望に応じた外出支援を日常的に行っているが、希望が聞かれない人の外出支援が少なく特定の利用者に偏りがちである。	自ら希望されない利用者や重度の利用者に対しても外出支援を働きかけ、新型コロナウイルス対策をしっかりと行った上で外出が出来るようにする。	・希望の表示が困難な利用者は生活歴やご家族からの聞き取りを通し希望を推測し外出支援に繋げる。 ・自ら希望されない方は普段の会話の中から行きたい場所や思い出の場所等を引き出したり外出先の提案を行う。また、ケース記録に本人の言葉を残す事で全職員が把握し特定の利用者に偏らないよう計画的に行う。 ・リハビリ専門の助言を参考に、外出支援を生活機能向上に繋がられるよう個別計画に盛り込む。	12ヶ月
5	27	日々の様子等をケース記録に残しているが、利用者によって内容が同じになったり、本人の言葉や表情を具体的に記録していない場合がある。	職員全員が気付きを増やし、ケース記録に些細な事でも残す事で利用者の生活がより良くなるようケアの実践に繋げる。	・利用者の言葉や表情をケース記録に残す事の意味や必要性を職員全員が理解し入力に繋げる。 ・利用者との関わりを増やし、些細な言葉や表情等を記録に残す。	6ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。なお、挿入した際は、印字状態を必ず確認して下さい。

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

※ 「1 自己評価及び外部評価結果」を評価機関から受領した時点で、3「サービス評価の実施と活用状況(振り返り)」と併せて作成します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	27	日々の気付き・連絡事項を申し送りノートやケース記録を通して確認し情報の共有を図っているが内容の確認不足や理解度の差等もあり統一したケアを行うまで時間が掛かっている。	迅速な情報共有を行い、早い段階で統一したケアに取り組む。	・情報共有の中に口頭での申し送りも含め職員同士が2重3重と繰り返し確認し合う。 又、生活の様子を把握し経過記録に反映する。経過記録の統計を元に再度情報共有を行う。	6ヶ月
2	37	・1人ひとりの生活ペースを大切にせず中には次の業務を考え急かしてしまう事が多々見られた。 ・その人らしいとは何か再度考える必要がある。	・改めてどのように過ごしたいか確認する。 ・現時点の生活ペースで大変に思っている事がないか確認する。	・ユニットミーティングを通し、「その人らしい」、「誰の為のケア」等座学を取り入れて理解を深める。 ・今一度、利用者様にその都度希望を伺ったり、引き出してその人に合った支援を心掛ける。	3ヶ月
3	48	・すぐに出かけられるような近い場所に外出する事が多かった。 ・予め外出時間を多めに設け計画性のある外出支援を心掛ける必要があった。	・今後は可能な限り、外出先の希望も伺う。 ・中身の濃い計画性のある外出プランを作成する。	・利用者様の希望に沿った外出プランを利用者様、職員と共に計画する。 ・その日の体調にもよるが、利用者様が満足出来るような外出時間を設け、気分転換を図る。	3ヶ月
4	47	役割活動内容が偏ったり、行事内容が似たり寄ったりになる事が多かった。1人ひとりの生活歴を活かし役割活動や行事内容の幅を広げる必要がある。	・1人ひとりの生活歴の見直し。 ・視野を広く持ち色々な行事内容に挑戦する。	・幅広い行事内容の展開して毎日新鮮味のある生活を過ごして頂く。 ・生活歴から延長した役割活動や行事内容を企画する。	3ヶ月
5	8	成年後見制度について等、学ぶ機会が少な	・制度の理解を深め、活用出来るようにする。	・ユニットミーティングを通し、座学で理解を深める。(資料配布や読み合わせ等も行う。)	6ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。なお、挿入した際は、印字状態を必ず確認して下さい。

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

※ 「1 自己評価及び外部評価結果」を評価機関から受領した時点で、3「サービス評価の実施と活用状況(振り返り)」と併せて作成します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	・意思疎通困難な入居者様の思いを汲み取る事が困難。職員が汲み取れない事でストレスを抱えてしまう。 ・選択肢を提示しても表出しにくい方の場合職員が決めてしまう場面があった。	・自己決定できる。	・言語だけでなく非言語(写真や絵等)を用いて選択してもらう。 ・日頃の会話やテレビを観ている際もご本人の反応から汲み取る。 ・ケース記録やノートを活用しユニット職員で情報を共有する。	3か月
2	35	・トイレ介助時に職員が他入居者様の見守りを同時に行う際にトイレの扉を完全に閉めずに対応する時があった。 ・トイレ誘導時、ご本人の近くに他入居者様がいても関わらず聞こえる声量で声掛けする事があった。	・一人一人の尊厳を尊重した対応が出来る。 ・不快に思わずに過ごす事が出来る。	・近くに他入居者様が居る場合は、直接的な声掛けは行わずに離れてからトイレへの声掛けを行う。 ・伝わりにくい方へは身振りを使い、伝わりやすい方法を探る。 ・常に「自分だったらどうか」という視点を持ち対応を行う。	3か月
3	37	・入居者様の希望や意向に沿った過ごし方を提供しているが、食事・入浴等時間に囚われ職員本位の過ごし方を提供する事があった。 ・集団生活から自分のペースでない方もいる事が考えられる。	・職員本位にならないようにする。 ・希望に沿った生活を提供する。	・「その人らしい暮らし」をユニット職員で再認識し共有する。 ・楽しみ事を把握・提供する事で生き活きた暮らしを目指す。 ・職員が時間に囚われる場合は業務を見直し、入居者様本位の生活・過ごし方を提供する。	3か月
4	47	・役割活動の参加が偏ってしまう事がある。 ・活動のバリエーションが少なくマンネリ化する事があった。 ・ただ一日を過ごしているだけに見え、楽しみ事や気分転換の提供が不足していた。	・入居者様全員が楽しみ事を持ち、生き活きた表情で過ごす事が出来る。 ・生活の主体者である事が実感できるような活動や気分転換を提供する。	・日頃から入居者様の表情や仕草・様々な反応等を観察し、記録を残す。それを基に活動や楽しみ事を提供し表情等により満足度を判断する。 ・これまでの活動等に囚われず、他ユニットや他事業所で提供している活動等も取り入れ提供する。	3か月
5	23	・意思疎通困難な方や自ら意思表示し難い方の想いを汲み取る事が不足していた。また、ご本人の想いや希望を誤って捉えている可能性がある。 ・ご本人の想いや希望を職員本位で捉えている事があった。	・その時々々の想いや希望を的確に把握し、安心出来る生活を支援する。	・意思疎通困難な方は普段の生活の中(テレビや会話等)から表情・反応等から汲み取り記録に残す。想いや希望をユニット職員で共有し支援に取り入れる。 ・これまでの情報だけに頼らず、ご家族との会話の中からも聞き出し支援に取り入れる。	3か月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。なお、挿入した際は、印字状態を必ず確認して下さい。

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

※ 「1 自己評価及び外部評価結果」を評価機関から受領した時点で、3「サービス評価の実施と活用状況(振り返り)」と併せて作成します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	人格やプライバシーを損ねないよう声掛け等配慮し対応しているが、難聴や認知症による理解力の低下が進み転倒や事故が起きてしまうと予測する場面があるとつい強めの口調で制止してしまう時がある。	感情的な制止語・禁止語を使わず、人格や尊厳を傷つけないよう声の大きさや言葉を対応する。	職員一人一人が人格や尊厳を傷つけないよう意識を持ち取り組む。又、転倒や事故が起きてしまうと予測した場合は、直接利用者に言うのではなく、周りの職員に声をかけ対応してもらい。職員同士、感情的になつたり制止語・禁止語を使う場面を作らない様にカバーし合い、気付いた点は話し合える環境を作る。	12ヶ月
2	21	利用者の行動を予測しトラブルを防ぐ様にしているが、予測できないトラブルもあり防げない場合もある。又、特定の利用者へ一方的に悪い思い込みをもち、陰口という形で他利用者へと伝わっていく様子みられる。職員間に入り関係の修復を試みるも、思い込みが強くなかなか理解して頂けず対応が難しい。	お互い協力し支え合いながら、良好な人間関係を築き生活が出来る。	利用者の会話の内容・表情を観察し、トラブルや陰口見られたら職員間に入り悪い印象とならないよう声掛けに配慮したり、会話を変えたり、役割活動等で気分転換を図る。又、ケース記録に関わり成功した事例を記録し職員間で情報の共有を図り、参考にし利用者同士の良好な人間関係を築き生活ができるよう取り組む。	6ヶ月
3	47	一人一人の生活歴や出来る力を活かした役割活動や、外出等で気分転換の機会が設けられるよう努めているも、ADLや意思表示力の違いから特定の人に偏ってしまう。又、ADLの低下や認知症の進行から以前出来ていた事が出来なくなってしまう。	特定の人に偏らず、その人の生活や力量から出来る事や楽しみを見つけ実行する。	ADLや意思表示の低下がある方のケアプラン内容をミーティングで見直し、その人の望む生活というものを確認する。又、色々な活動・場を提供し、その時の様子から出来る事・楽しんでいる事を見つけケアプランに反映させていく。	6ヶ月
4	37	ケアの統一を図る為、一日の時間の流れが決まっており利用者より希望や意思表示がないとグループホームの生活リズムを優先してしまう時がある。	時間にとらわれずに臨機応変に対応する。	無理に時間で進めず、希望や嗜好を考慮し楽しんでいる様子がみられていれば時間を延ばし、乗り気でない時は、時間をおき心身の状態に合わせて対応する。	12ヶ月
5	33	オンコール体制の確保や、AED・心肺蘇生法の講習を年2回受けているが、実際の場面では、急変や事故発生の時間帯にもより、冷静に実践できるか不安がある。	急変や事故発生の時間帯に関係なくすべての職員が、マニュアル通りに冷静に対応できる。	ミーティング時等にマニュアルの確認を行ったり、発生を想定したシュミレーションを行い緊急時に備える。又、普段より医師や看護師との連携を密にし、事前に考えられる状態・状況を職員間で把握しておく。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。なお、挿入した際は、印字状態を必ず確認して下さい。